

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100056		
法人名	たけのこ株式会社		
事業所名	佐尉郷の驛		
所在地	大分市大在中央2丁目8番11号		
自己評価作成日	平成24年3月6日	評価結果市町村受理日	平成24年5月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1・利用者本位のケアを目指し、職員が一丸となりチームケアに取り組んでる。一人ひとりの思いや行動に寄り添って自由に生活できるように支援している。</p> <p>2・テスト制度を導入し、自己研鑽に取り組んでいる。</p> <p>3・「専門委員会」にて職員主導で、質の向上に取り組んでいる。</p> <p>4・地域の中で住民の一人として行事や地域交流に参加したり、一室を住民に開放している。</p> <p>5・認知症の専門施設である事を地域に発信している。職員による劇団がある。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490100056&SCD=320&PCD=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館 1F
訪問調査日	平成24年3月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該事業所は主要道路から近く、住宅地と商業地域の中心に位置しており、同敷地内には有料老人ホーム、デイサービスが併設されています。利用者が、住み慣れた地域で、「第二の住宅」と意識して過ごせる環境を作りたいと、管理者、職員は「理念」にもある「あなたらしさ」「地域とのつながり」を大切に支援に取り組んでいます。日々のケアの実践から得た気付きを職員及び事業所全体の共有へと高め、理念の実現に努めると共に、利用者一人ひとりに明るく接する職員の態度が利用者の穏やかで明るい雰囲気となって表れています。又地域のつながりは事業所が重視する課題の一つであり、交流は着実に拡がりつつあるが、現状で満足することなく、地域で必要とされる活動や役割りを積極的に担う事を通して、連携が更に深まるよう取り組みを強化しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を掲示し、事業所内の理念の試験でも理念の出題があり、理念を自覚し共有・実践している。スタッフ会議では、毎回読み、確認している。	職員は常に笑顔で接し、利用者には楽しく、安心して過ごして頂けるよう日頃から理念を意識しながら、ケアに取り組んでいます。「あなたらしさ……」を大切にできるよう、ケアの質の向上に日々研鑽を積んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、招待もされている。幼稚園や小学校とも交流を行っている。	職員同伴での散歩の際の挨拶や会話、地域のお祭りや運動会等の行事の招待や、幼稚園児、ボランティアの来訪など地域交流を大切にしています。又地域紙による認知症の啓蒙活動を行い、事業所が地域福祉の拠点となるよう努力をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症の劇団がある。 ・認知症家族支援事業を行った。 ・地域紙に記載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・参加者は管理者であるが、議事録を観覧している。	3ヶ月に1度運営推進会議を開催し、家族代表、地域代表、行政職員等の参加があり、会議では事業所の取り組み、現状報告を行い、参加者からの意見、要望をサービスの向上に活かしています。又会議の内容は各家庭に配布しています。	通常の報告や話し合いとは別に、より積極的に事業所運営への意見を頂けるよう、幅広い話題の中から議題選定を試みるなど、更なる会議の活性化を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	一般職員は行っていない。	市の要請で認知症家族介護支援の勉強会を開催したり、市に出向き情報提供を行うなど連携が図られていますが、日常的な協力関係までは至っていません。	行政職員の運営推進会議への参加の意識が薄いことも踏まえ、市の担当者や、地域包括支援センターと情報交換を行うなど、もっとアピールして協力関係を築いてゆくことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・スタッフ会議にて身体拘束についての勉強会を行っており、拘束が許されない職場であることを自覚している。	職員は身体拘束の弊害を理解しており、研修等で再認識をしています。玄関の施錠は防犯上夜間のみ行っていますが、事業所内では常に寄り添い、傾聴に努め、拘束のないケアの実践を目指しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修で学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・管理者対応し、実践している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会があり、意見交換が出来ている。 ・認知状の中でも、都度ご意見がいただけるような関係になっている。	利用者の意見、要望は日々のコミュニケーションの中から職員が汲み取っています。家族にはケアプラン承認時や、日常随時の電話連絡や面会時の話の中から意見、要望を聞き取り、前向きに受け止め運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・スタッフ会議や面談にて意見できる場がある。 ・専門委員の中に業務改善委員がある。	職員が意見や提案を表明する機会として「業務改善委員」を設置し、会議で代表して発表を行い、出された意見や提案は、臨機応変に対応することで職員の意欲の向上や、サービスの質の確保に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・時間外や会議に出席した時に、手当てを付けてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・施設内研修や、外部の研修の案内があり、勤務として参加出来る。 ・スタッフ会議で研修報告を受け、情報を共有している。 ・会議の進行・書記を順番で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修の場に於いて、交流が出来ている。 ・地域ネットワークにも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ケアマネが把握し、職員に伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ケアマネが把握し、職員に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・不穏や暴力行為で、ケアだけでは対応が難しくなっている方には、デイケアにて治療をおこなった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活の中で、掃除や食事の支度など一緒に行っている。日常生活の中で、利用者様個別に出ることを見出し、一緒に行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・開設記念日は、ご家族にも参加して頂き、一緒に行っている。 ・毎月家族へ生活の様子を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・故郷訪問を行っている。本人が希望すれば、都度対応している。	利用者、家族の聞き取りや、生活歴の中から馴染みの人や物、場所を確認し支援に繋がっています。年に数回、家族の協力を得て帰宅したり、墓参り等も実施されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係についても、職員が把握出来ている。 ・一緒にお茶を飲んだり、会話をし、職員が仲介役となり、利用者さん同士が話せるように意識している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去後も、立ち寄ってくれる家族がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の生活の中からくみ取っている。	利用者が発した思いや要望を、申し送りや会議等で共有し、支援に反映させています。又把握が困難な場合は、日々の行動や表情から汲み取り、本人の視点に立って検討をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前に聞き取り調査を行い、ユニットに情報を流し共通理解している。 ・フェイスシートもいつでも見れるようになっていいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・月に一回ケア会議で確認している。 ・日々の中でも、話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日ごろの関わりの中で、思いをくみ取りアセスメントやモニタリングを行い、ケア会議にて意見交換し、介護計画を作成している。常に「その人らしさ」は何か？を考えている。	家族との話し合いや要望を基に、担当職員を支え介護計画を作成しています。「その人らしさ」を常に考え、モニタリングでは、満足度を確認し、計画の見直しに繋げており、状況の変化がある時には随時変更を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケア記録・申し送り・連絡ノートにて情報を共有している。 ・業務に入る前に記録を読むようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・外泊・外出支援を行っている。 ・訪問診療を受けている。 ・必要に応じ、デイ・ケアの利用も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・運営推進会議にて、地域の方へ呼びかけしている。地域参加行事では、席の配慮をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・主治医は、家族・本人希望になっている。 ・随時日ごろの様子を報告している。症状によって、家族へ他科への受診を勧めることもあるが、家族の判断に委ねている。付き添いも希望にて行っている。	利用者や家族の意向に添った医療機関への受診、並びに、付き添いに対応しています。身体状態の把握に努めており、職員間での共有と周知が図られています。体調の変化や受診結果等は家族に伝達しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・状態変化の場合、看護師に連絡する体制が出来ている(24時間対応)状態についても常に管理者やリーダーから報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・個人への対応方法や留意点など入院時に行っている。 ・見舞いに行ったり、家族にも連絡し状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・救急搬送を希望するのか、延命治療を希望するのかなど、家族の希望を聞いている。	利用者や家族の意見・希望の把握に努めながら、日常のケアの充実に取り組んでいます。家族等との相互の意思疎通を大切に、話し合い・意思確認を行なう中で、気持ちに寄り添えるケアの実践に全職員で携わっています。	看取りの経験の中で、終末期介護について、施設の方針や現状を見つめながら、今後の在り方等について、全職員間での共有の取り組み(協議)と周知、マニュアル等の見直しに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で年に1.2度程行っているが定期的ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団や近隣の役員が応援にくる体制を作っている	地域消防団との連携の仕組みが講じられており、訓練において、施設の現状の共有が図られています。運営推進会議を活用しながら、近隣への協力体制づくりに向けた発信も行なわれています。	自然災害時への危機感を持ち、対応を模索する姿勢が伺えます。地域環境を考慮する中で、行政や同業種その他施設との連携も、課題として取り組まれることに期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・常に、言葉・行動に注意して行っている。 ・尊う気持ち、お互い様の気持ちで対応している。 ・実習生や外部に人に個人情報が漏れようとしている。 ・プライバシーについても研修で学び守っている。	個人情報に関わるマニュアルや、プライバシー・日常の言葉かけ等を含めた研修において、全職員間の周知に取り組んでいます。 その人らしさの尊重を旨に、「尊厳」のある暮らしの支援に取り組む様子が伺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・おやつ時、希望の飲み物を入れている。 ・服を選んでいただいている。 ・入浴 足浴など、予定日でなくても希望があればおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ユニットの流れはあるが、参加不参加は本人の意思を尊重している。希望があれば、出きるだけ柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・着たい服を着ていただいている。 ・毛染めや髪型も意向を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・出きる範囲の事を一緒に行っている。	利用者の生活暦や嗜好の把握と、個々の利用者の食の変化(残量等)を考慮しながら、食べ易さや見た目を配慮した、食べたい献立作りに取り組んでいる様子が伺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量・水分量を記録し、把握している。 ・摂取量が少ない時は、代用品で補充している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後行っている。 ・重度な方や状態によっては出来ない時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表にて、排泄パターンを把握し誘導し、失禁を少なくしている。・夜間紙パンツが必要な方も、日中は布パンツにし、誘導している。・全介助の方も、座位が取ればトイレで排泄して頂いている。	「寝たきりにさせない」支援を念頭に、排泄チェック表を活用する中で、一人ひとりの利用者の状態に合わせた声かけや誘導に励んでいます。身心の健全な生活である、便秘解消の対策にも取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分量に意識し、水分不足にならないようにしている。 ・毎身体操をし、身体を動かしている。 ・ヨーグルトを良く出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・3日に一度は入浴できるようにしている。 ・便失禁で汚染したら、その場で入っていたりすることもあつたし、予定日でなくても入っていただいている。	要望に応じて毎日の入浴も可能です。全職員で、清潔保持・安全な支援への配慮に向けて取り組んでいます。職員の気づきとチームワークを活かしながら、安心して楽しめる雰囲気づくり・援助に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・眠い様子があれば、居室に誘導し横になつていただいている。一人で居室は寂しいと言われる方には、リビングで休んで頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個別のファイルがあり、いつでも見れるようになっており、把握している。 ・服薬が変更した場合は、記録に残し連絡している。・与薬は、個別対応で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・お茶の時間は、飲みたい物を選択して頂いている。 ・タバコやお酒も希望応えている。 ・出きる仕事を個別にして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・気候の良い時期は、外出・散歩を良くしている。・故郷訪問を行っている。・昔からの馴染みの方やお店へ希望時お連れしている。	本人や家族の意向を捉え、個々の思いに寄り添い・付き合う支援(対応)に取り組んでいます。状況に即した臨機応変なドライブや買出し等、外出支援や外気浴を通して、気分転換への営みが行なわれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が希望すれば、家族の協力の元、持っていただいている。お賽銭は、本人様の手から出していただいている。買い物希望時は、同行し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙の支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・音楽がある環境である。 ・台所にて、毎食食事を作る音や匂いを嗅いでいる。 ・季節を感じる行事食を行っている。	楽器(ピアノ・大正琴)・歌を生活に取り入れたり、利用者の楽しみごとの支援の場としても活用されています。個々の思いの把握と環境の見直しに努めており、心地よい共同生活空間づくりに全職員で励む様子が伺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テレビ前にソファが用意されており、居心地の良い場所となっている。 ・中庭にも、椅子やテーブルがあり、気候の良い時は外で寛いでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ベットは備え付けになっているが、希望すれば持ち込みも出来、畳対応も出きる。食器や布団・ダンスなど、居室に入る物であれば持ち込んでいただいている。	日常的に一人ひとりの利用者とのコミュニケーションを大切に、寄り添う支援の中で、その思いや家族の意向を踏まえつつ、和める・リラックスできる居室の環境づくりに取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ 浴室 廊下に手すりがあり、バリアフリーになっている。 ・混乱を生じる物は都度、補修している。		